

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23006

建築物名称	(仮称)川崎東百合丘4丁目計画
建築主	SOMPOケア株式会社 代表取締役 鷺見 隆充
建築物の所在地	川崎市麻生区東百合丘四丁目17番1
設計者氏名、建築士事務所名	橋 淳一郎 C&Pマネジメント 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,996.61㎡
用途	児童福祉施設等
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和6年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎東百合丘4丁目計画	階数	地上4F
建設地	神奈川県川崎市麻生区東百合丘4丁目17番1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域 準防火地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年5月12日
敷地面積	1,966 m ²	作成者	橋淳一郎
建築面積	1,096 m ²	確認日	2023年5月17日
延床面積	3,997 m ²	確認者	橋淳一郎

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している		
2 まちなみ・景観への配慮		1.9/4.3	2.2
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率43.98%		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	複層ガラスを使用		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		1.2/1.8	3.3
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率43.98%	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	建物外皮の熱負荷の抑制(BPI 0.74)		
2 自然エネルギーの利用		3.0/5.0	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.7	2.4
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	内装材、換気ダクト、給排水管に長寿命仕様を採用	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		1.9/4.0	2.4
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率43.98%	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	建物外皮の熱負荷の抑制(BPI 0.74)		
2 自然エネルギーの利用		3.0/5.0	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	建物外皮の熱負荷の抑制(BPI 0.74)		
2 自然エネルギーの利用		3.0/5.0	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄				全体		
配慮項目	G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体								
										評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質																2.6	
Q1 室内環境																	2.9
1 音環境																	2.7
1.1 室内騒音レベル																	
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能																	
2 界壁遮音性能																	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																	
1.3 吸音																	
2 温熱環境																	2.6
2.1 室温制御																	
1 室温																	
2 外皮性能																	
3 ゾーン別制御性																	
2.2 湿度制御																	
2.3 空調方式																	
3 光・視環境																	3.1
3.1 昼光利用																	
1 昼光率																	
2 方位別開口																	
3 昼光利用設備																	
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御																	
3.3 照度																	
3.4 照明制御																	
4 空気質環境																	3.1
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質																	
4.2 換気																	
1 換気量																	
2 自然換気性能																	
3 取り入れ外気への配慮																	
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視																	
2 喫煙の制御																	
Q2 サービス性能																	2.6
1 機能性																	2.7
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性																	
2 高度情報通信設備対応																	
3 バリアフリー計画																	
1.2 心理性・快適性																	
1 広さ感・景観																	
2 リフレッシュスペース																	
3 内装計画																	
1.3 維持管理																	
1 維持管理に配慮した設計																	
2 維持管理用機能の確保																	
2 耐用性・信頼性																	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振																	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																	
2 免震・制震・制振性能																	
2.2 部品・部材の耐用年数																	
1 躯体材料の耐用年数																	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																	
6 主要設備機器の更新必要間隔																	
2.4 信頼性																	
1 空調・換気設備																	
2 給排水・衛生設備																	
3 電気設備																	
4 機械・配管支持方法																	
5 通信・情報設備																	

3	対応性・更新性								2.2	0.30	2.2	1.00	2.2
	3.1 空間のゆとり								1.4	0.30	1.4	0.50	
	1 階高のゆとり								1.0	0.60	1.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								2.0	0.40	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								2.2	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								1.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								1.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	G	W		H				2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G							2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H				3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	2.6
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H		BPIm=0.74		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W		H				3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W		H		BEIm=0.93		2.3	0.50	-	-	2.3
4	効率的運用								2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価								2.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H				3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H				2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H				3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H				3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.4
1	水資源保護		W		R				2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水								1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.4	0.60	-	-	2.4
	2.1 材料使用量の削減		W		R				2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R				3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R				3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R				1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R				2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R				3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								2.6	0.20	-	-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								2.5	0.70	-	-	
	1 消火剤		W						-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W						2.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W						3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	2.5
1	地球温暖化への配慮		W				ライフサイクルCO2排出率94%		3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮								2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H				2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減				R				3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制				R				3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制				R				2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制				R				2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								2.1	0.33	-	-	2.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								1.6	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								1.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								1.6	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								1.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	1.0			○	-	-		○						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	-	-	○	-	-		-	○	○		-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	○	-	○	-	○		○	-	○		-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	-	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.5 通信・情報設備	1.0		○	-	-	-	-	-	-						
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-						
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-						
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0		-	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	-					
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-					
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-						
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-						
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-						

主な指標

Q1 室内環境		窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) -	
2.1.3 外皮性能		U値(W/m ² K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -	
		住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -	
3.1.1 屋光率		屋光率 0.0%	
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口率 0.0%	
Q2 サービス性能		執務スペース .0m ² /人 病床 .0m ² /床 シングル .0m ² ツイン .0m ²	
1.1.1 広さ・収納性		コンセント容量 0.0 VA/m ²	
1.1.2 高度情報通信設備対応		天井高 2.3 m	
1.2.1 広さ感・景観		リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%	
1.2.2 リフレッシュスペース		想定耐用年数 25 年	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定必要間隔 19 年	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 0 年	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 0 年	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		階高 3.2 m	
3.1.1 階高のゆとり		壁長さ比率 51.0%	
3.1.2 空間の形状・自由さ		床荷重 - N/m ²	
3.2 荷重のゆとり		外構緑化指数 48% 建物緑化指数 16%	
Q3 室外環境(敷地内)		空地率 44% 水平投影面積率 21% 地表面対策面積率 26% 舗装面積率 15%	
1 生物資源の保全と創出		BPI/BPI _m 0.74 耐熱性能等級 対象外 相当	
3.2 敷地内温熱環境の向上		自然エネルギー直接利 0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
LR1 エネルギー		通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI _m 非住宅 0.93 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW	
2 自然エネルギー利用		雨水利用率 0.0%	
LR2 資源・マテリアル		特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		使用比率 0.0%	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP)	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		オゾン層破壊係数((0 地球温暖化係数(GWP)	
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数((0 地球温暖化係数(GWP)	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)			
3.2.3 冷媒			
LR3 敷地外環境		見付面積比 #DIV/0! 棟間隔指標Rw -	
2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率 43.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0!	外壁面対策面積率 #DIV/0!
		見付面積Sb m ² 越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m	基準高さHb 0 m
		緑地 200m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ²	高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²